

清瀬市まちづくり基本条例に基づく提言について

当委員会では、清瀬市まちづくり基本条例に基づく市民提案について審議してまいりましたが、実施に向けて取組むべきものと判断いたしましたので、別紙のとおり提言いたします。

[病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！]

平成27年6月2日

清瀬市長 渋谷 金太郎 殿

清瀬市まちづくり委員会
委員長 菊谷 隆

提 言 書

I 提言の主旨

平成 26 年度清瀬市まちづくり委員会は、清瀬市まちづくり基本条例第 9 条第 2 項に基づき「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」について、平成 25 年度に提言しました情報発信基地の実現と現在進行中のシティープロモーションを加速させる上で、市民が関心を示している外気舎とこれまでの歴史から、更なる魅力あるまちとして過去と未来の融合都市となるように、結核療養の歴史展の開催を市長に提言いたします。

[清瀬市まちづくり基本条例]

(清瀬市まちづくり委員会)

第 9 条第 2 項 委員会は、まちづくりについての市民の提案及びこの条例が適切に運用されているかをそれぞれ審議し、その結果を市長に対し提言することを目的とする。

II 提言の理由

1 市民からの提案

市民から下記の提案が提出されたため、審議して参りました。

また、平成 26 年度内に他にも医療の歴史関連の提案もあり、審議していく中で参考といたしました。

1) 提案の題名

「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」

2) 提案内容

「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」

清瀬市の今日の「病院のまち」の出発点となった清瀬と結核療養所の歴史をもっと正しく知りたいと思います。

清瀬市の広報「きよせ」などを見ていると公益財団法人結核予防会結核研究所には、病巣の標本なども保存され、結核撲滅のポスターとか、結核の治療・療養に関する貴重な国内外の図書・研究資料が沢山保存されているようです。

最近開催されている石田波郷展では、療養中の俳句集、歴史的な清瀬結核療養所の写真なども何枚か展示されていました。

作家の結核患者はたくさんおり、吉行淳之介は療養中に『驟雨』で第31回芥川賞を受賞、結城昌治も療養しています。

この40数年に及んだ結核療養に関する資料（当時の新聞記事や清瀬の風景、あるいは結核に関する映像ニュースなど、関係者のビデオメッセージとか）など関係資料の調査・収集もこの機会にできれば幸いです。エボラ出血熱、デング熱などのこれから増加するとみられる感染症の予防、撲滅にもつながっていくと思います。

については、公開できる療養資料、ポスター、標本、患者の記録、写真など結核療養時代の全貌を一般の人が関心を持てるよう、世界的に流行した「結核」であれば、ヨーロッパ、アジアなどの結核状況・データにもふれた展示会を開催してみてもはどうでしょうか。

この世界一といわれた清瀬の「結核療養システムの歴史を明日へ」の初の公開展示（+元結核患者、医師などの講演）ができるとよいと思います。

市民や活動団体との協働の実行委員会形式などで開催案や展示会の内容構成もできると市民自ら結核の歴史や研究の成果を伝えていくことも可能と考えます。

結核予防会の貴重な資料などが中心となりますので、予防会の展示室での開催や清瀬市/結核予防会の共催などが考えられそうです。

また、さらに研究調査を続け、郷土博物館などでの展示へと発展できれば。

公益財団法人結核予防会結核研究所は、昭和14年に内閣総理大臣に賜った皇后陛下（香淳皇后）の令旨を奉戴し、内閣決定により設立された公益法人です。

総裁秋篠宮妃紀子殿下のもと、結核を中心に、肺がん、その他の呼吸器疾患の予防事業、調査研究および国際協力等を行っている。

2 まちづくり委員会での検討

上記の提案についてまちづくり委員会において、検討しました内容は下記のとおりです。

- 1) 様々な意見の中から、結核を扱って清瀬のまちづくりに貢献することができるのか、マイナスになるのではとの意見もありました。しかし一方で清瀬の結核療養所群が一般病院に生まれ変わり、病院のまちとして発展してきたことを考えれば、結核の歴史展～結核の過去・現在・未来～を開くことは十分意義があると思われるとの意見もありました。
- 2) 清瀬には、福祉や看護関係の大学もできていてまさに病院のまちはさらに医療福祉の高等教育の場としても重要になっていると感じます。市内には日本社会事業大学、明治薬科大学、国立看護大学校、日本看護協会看護研修学校、(独)労働安全衛生総合研究所もあることが魅力です。
- 3) 清瀬市が、「外気舎記念館」を市の指定有形文化財に指定(2014年2月)され、石田波郷の句碑も中央公園に建っていて「世界医療文化遺産」登録を目指して活動されていると思われるのでシティーセルズの活動として良いと思います。

市民の声は声として検討してもよいのではないかと思います。

外気舎記念館は、二つベッドがあり作業療法患者が住んでいた病舎で、かつて72棟あったうちの1棟が記念として残されています。

- 4) まちづくり委員会の有志で、結核研究所の見学に行きました。講堂ではちょうど保健師さんたちの研修が行われていたが、展示されている病理標本の説明を受け、会議室に移動後、顧問の先生より結核病巣のスライドを映し説明を受けました。

また資料室では、当時の結核予防ポスター、研究図書などを拝見させて頂きました。これらの貴重な史料は、これまでの結核の歴史を伝えていくためにもぜひ一般公開できれば良いと感じました。

- 5) いまも結核はアジア・アフリカ諸国など世界で100万人が亡くなっています。結核研究所には、インドなど南アジア、中近東、アフリカ、南米、ヨーロッパの97か国から、この50年で2200人ほどが研修に来ています。清瀬の結核研究所は、最先端の技術を世界に普及する役割を果たしていると思います。

今やKIYOSEは、医療界では海外でよく知られている国際都市といえます。2020年に東京オリンピックが開催されれば、KIYOSEで学んだ外国の人たちがまた清瀬に来てくれるのではないかと推測いたします。

6) 歴史展に併せ、作家たちの作品や遺構に絡んだ結核の史跡を巡るツアーをしても、面白いと思います。

史跡としては、外気舎記念館、出発点の石柱、桜の園（以上、東京病院敷地内）、ここに清瀬病院ありきの碑、澄川喜一氏による平和の塔、石田波郷の句碑、（以上、中央公園内）などがある。中央公園は、かつての清瀬病院の設立にあたっては地元との軋轢があった場所ということを考えれば、この地を結核のメッカのシンボルとしてより有効に記念公園として残すことも考えられます。

7) この歴史展は、できれば一過性ではなく、継続的に開催していければよいと考えます。多くの方々に、多摩地域や関東周辺からも、かつての医療の歴史を学ぶため、多くの人が足を運んでくれるような展示内容になればよいと思います。

8) 市民や活動団体との協働で実行委員会形式をとり、開催案や展示会の内容構成ができると市民自ら結核の歴史や研究の成果を学べ、そのことで自分たちのまち、清瀬への誇りも深まると考えます。

9) 企画展示を行う方法の一つとして、市内の大学や各施設を同時期に一般開放して市内全域を巡れるものにもすることも考えられます。

10) 結核史跡巡りの病院のまちマップとか、小冊子も作成してみてもいかがでしょうか。英語併記にすることも検討してもよいのではないのでしょうか。

11) 時期として3月24日の「世界結核デー」。この期間に合わせた企画展示を行えるとよいと思います。世界保健機構が、ロベルト・コッホ博士が1882年3月24日に結核菌を発見し講演したことに因んでいます。（参考までに）

12) 「結核治療のメッカの地、清瀬に結核歴史資料館を」及び「外気舎記念館の周辺を公園として整備を、また公開を」の提案も同時期にあり、市民の機運が盛り上がっていると感じます。歴史や遺産を通して郷土愛を育み、愛着や誇りをまちの活性化と市民参加のまちづくりにいかせるとよいと思います。

展示構成案として

★共催／清瀬市、結核研究所

協賛・協力／日本社会事業大学、明治薬科大学、国立看護大学校、
日本BCG研究所、日本患者同盟ほか

開催目標：2年後（2017年）に第1回を開催

開催地候補：博物館・けやきホール・結核研究所など

- 1) あいさつパネル
- 2) 結核療養所関連年譜
- 3) 芝山の武蔵野の雑木林（写真合成）
- 4) 結核清瀬病院設立に反対する住民、意見書（当時の新聞記事、ニュース映像など）
- 5) 清瀬病院（当時の写真）
- 6) 次々に設立される療養所と東京病院（72棟の外気舎の図または写真）
- 7) 病理標本（一部）、予防ポスター、関連図書（結核研究所）
- 8) 世界一の療養所システムのジオラマ（解説図）
- 9) 世界と日本の結核データなど（患者数、死亡率ほか。石油療法など民間療法）
- 10) 結核の研究・治療（療養所で開発された技術・研究、活躍した医師・看護師の業績、療養で死闘した患者の記録など。ストレプトマイシンなど抗結核薬ほか。
- 11) 石田波郷と作家たちの療養
- 12) 結核の収束と病院のまちへの変貌
- 13) 新たなウイルスの攻撃！（エボラ出血熱、デング熱ほか）
- 14) 映像コーナーを設ける（元患者・医療関係者の証言、当時の映像や映画など）
- 15) 講演会の開催（元患者・医療関係者）

関連した記録を見ますと、患者はみな、四季折々の清瀬の自然を愛していました。2020年に市制50周年を迎える今、結核のメッカ清瀬の時代をしっかりと俯瞰することはとても重要であると思います。関係資料も改めて収集、調査して、展示内容を充実させることが望ましく、多くの人に見て頂き、知っていただくためにも、史跡巡りマップ（解説付）の制作も必要と考えます。

3 まちづくり委員会の提言

以上を踏まえ、約半世紀に及ぶ清瀬の地が中心となって結核撲滅に果たした歴史は重いと考えます。

病院のまちとして、今後も一層の発展をしていくためにも、結核のメッカ「KIYOSE」の歴史をしっかりと検証し後世に受け継がれていくように行政と市民の協働で企画する「病院のまち清瀬の結核療養の歴史展の開催を！」を市長に提言いたします。

最後に今回の提言は歴史展の開催であります。平成25年度まちづくり委員会の提言でありました「清瀬の行政・医療・歴史・文化・産業を案内する清瀬市魅力情報発信基地（仮称：清瀬市情報センター）を設置すること及び清瀬ガイドマップの発行・配布を！一見える清瀬、住みやすい清瀬を目指して一」を実現するための第1歩と考えます。今後継続していくシティープロモーションのひとつとして、市長が掲げる、清瀬市の世界医療文化遺産登録の実現に近づくと信じております。